

<p>研究成果</p> <p>3,000 字程度 (別紙添付可)</p>	<p>今年度、わずかな研究班費用を捻出して、台湾、韓国そして中国各地に調査研究を乗り出した。沖縄の観光スタイルをさらに明確にしておきたいことになる。</p> <p>その一、「平和的沖縄観光」の提言（韓国チェチュウにて）にかかわり</p> <p>1943年の太平洋戦争の一部が沖縄となり、沖縄は多くの被害を受けた。近年観光は国の柱となっており、戦跡の観光化が目立つようになってきた。50年代後半から、遺族たちが戦跡を訪れるようになり、それが観光化の始まりである。慰霊のために来ている人が多い。戦跡が国内観光化していて国際観光化が90年代から始まっている。基地の存在も沖縄を目立たせている。平和は沖縄の観光的価値がある。</p> <p>平和観光の条件</p> <p>平和観光の条件として、慰霊祭などの行事などで呼び込む必要がある。慰霊祭は戦跡や歴史とつながっている。これらによって国内成長につながり、外国人観光客がピークになる。しかし、明確にされていない状態にある。</p> <p>この条件の前提として、戦争をしない事があげられる。基地反対、平和教育、開発をしない、自粛、核をなくす、環境保護、人種差別をしないなどを行う。</p> <p>沖縄の観光発展に関連している資源・環境問題</p> <p>現在、沖縄の観光は量より質が求められている。そのためには、まず、環境を保護しなければならない。環境を保護するために、資源を大切にしないといけない。沖縄の海は遠くから見るときれいに見えるが、近くによってみると、汚く見える。それは、環境汚染が原因といえる。環境問題は沖縄の観光にかかわってくるので、環境問題は、沖縄の課題といえる。そのうえ沖縄の特色は明確化されていない。そういったところも問題である。</p> <p>イビザ島は沖縄に似ているところがあるので、参考にしたほうがいい。</p> <p>70年代までは、金銭的な問題があった。しかし、それ以降は、政府から補助金が出るようになった。</p> <p>ホテルの部屋が足りていないという問題もある。現在、県内のホテルの客室数は26000部屋で、それに対し一日7万人のお客さんが利用している。ハワイの半分くらいと言われている。</p> <p>飛行機の座席数も足りていない。</p> <p>交通も不便で、電車は無く、バスやタクシーモノレールなどの交通機関はあるものの、バスは県外のように時間通りには滅多に来ないし、モノレールは電車のようにどこまでも行けるわけでは無く那覇市の一部しか通っていないし、車社会と言われるだけあって車の数が多く、交通渋滞が多い。</p> <p>購買率も二分の一に低下している。また、同じように観光名所地のハワイを比較対象をしながら調査研究を進めている。</p>
--	--